

令和7年度 県立土浦第三高等学校自己評価表

No 1

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性の伸長を図るとともに、「生きる力」や「豊かな心」を育み、社会に貢献できる人材を育成する学校		
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	生徒一人ひとりの個性や能力が発揮され、未来を主体的に切り拓く力や豊かな人間性を身に着け多社会に貢献できる人材。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	自らの興味・関心や進路希望に応じて生徒が学びを選択し、知識・技能はもちろん、学ぶ意欲や主体的に判断・行動してよりよく問題を解決する資質・能力などの確かな学力を身に付け、地域社会を輝かせる心身ともに健全な生徒の育成。 ※ドサン・プライド (Dream／Opinion／Seek／Active learner／Never give up)	
	「入学者の受入に関する方針」(アドミッション・ポリシー)	目標や向上心を持って学習に励むとともに、部活動等や生徒会活動、学校行事などにも積極的に取り組み、充実した高校生カウを送る意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
「文武両道」「文武不岐」の指導を推進するとともに、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた心身ともに健全な人材の育成を目指して全職員がチームとして教育活動に取り組み、しっかりと進路実績を残すことができた。 今後さらに実績を積み上げ、地域社会からの期待と信頼に応えることができるようなお一層努力を継続していく。	確かな学力の育成を図り、自らの力で未来を切り拓く知性や教養など、活用できる能力を養う。	① 確かな学力の定着を図り、国公立大学や難関私立大学への進学実績をさらに伸ばす。 ② 学習意欲の高揚に努め、自発的な学習の習慣化や家庭学習の確立を図る。 ③ 個別面談及び保護者面談を充実し、個々の学校生活の目的や進路希望を明確にすることで、自己実現に向けて主体的に取り組む態度を育成する。 ④ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ⑤ 希望する進路の実現に向けた課外活動の充実を図る。 ⑥ 生徒個々の興味や関心、適性等に応じた進級時の適切なコースないし学科の選択を実施する。 ⑦ 商業関係学科においては、専門科目の学習内容の充実を図り、資格取得の実績向上と進路の実現を目指す。	A
	文武両道を推進すると共に、様々な体験や学習活動を通し、心身ともに健全で豊かな人間性を養う。	① 特別活動等の充実を図り、活力ある学校生活の創造に努めると共に、調和のとれた生徒を育成する。 ② 生徒の規範意識を向上させ、本校生としての自覚とマナーを心得た生徒を育成する。 ③ 道徳教育を推進し、人間としての生き方やあり方に関する指導の充実により、豊かな人間性・社会性を身に付けさせる。 ④ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図ると共に、様々な学校行事を通じて生徒の学校生活の充実を図る。 ⑤ 校外活動やボランティア活動への積極的参加を推進し、社会において必要な実践力を育成する。 ⑥ 文武両道を推進し、知育、徳育、体育のバランスのとれた学校運営を实践する。	A

	キャリア教育を充実し、望ましい職業観や勤労観、社会性を養い、将来の夢や希望の実現を目指す。	① 生徒個々の自己理解と職業に対する意識の高揚を図り、希望や適性に応じた進路実現のための的確な支援を行う。 ② 生徒の主體的な進路選択及び希望する進路実現を支援するため、進路相談・学習相談・就業体験の充実を図る。 ③ 就職試験や面接試験対策等の充実を図り、具体的かつ実践的な能力の向上を図る。 ④ 適切な進路指導を進めていくため、本校の現状分析や教員の研修機会を充実させる。 ⑤ 探究的な学習を通して課題発見・解決能力の育成を図り、変化の激しいこれからの社会を生き抜く力を育成する。	B
	普通科と商業関係学科の併設校として、地域の期待に応え信頼される学校を目指す。	① 各学科の目標の実現に向けた授業内容の充実を図り、関係機関との連携にも努める。 ② 学校のさらなる発展に向け、保護者、学校評議員、地域住民等からの情報や意見を聴取して学校運営に資すると共に、地域の関係機関との連携を強化する。 ③ 中学校への訪問を実施し、本校の理解の促進を図る。 ④ 保護者や地域住民との情報交換を積極的に行い、相互の理解と協力体制の確立を図る。	A
	働き方改革を推進し、心身ともに健康的で働きやすい職場環境の構築を目指す。	① 業務内容の見直しと業務量の軽量化を図り、勤務時間外在校時間の短縮を図る。 ② 休暇を取得しやすい職場環境の醸成に努める。 ③ 校務にICTを積極的に取り入れ、電子化による円滑な業務の推進を図る。	A
	授業改善	① 「わかる授業」を展開し、基礎基本の定着から、発展・応用に対応できる力を身に付ける「できる授業」へ展開し、授業満足度(KPI)を80%以上とする。 ② 他者との対話や協働などをおして、新たな技法、価値の創造、多様性の尊重等を身に付け、課題を主体的に解決できる能力を育成する。	B

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		生徒が自ら学び、意欲的・主体的に学習活動に取り組む授業を目指す。	生徒の学力を向上させるため、必要となる教材、教具の研究、事後の振り返りを十分に行う。	A	B	「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある。
			授業ごとに、生徒が進んで学習できたかどうか指導内容を振り返り、授業に工夫改善を加える。	B		
			進路希望と個の適性に応じた学習指導の実践と授業の質的向上を目指す。	B		
教科	国語	学習する習慣を身に付けさせるとともに、基礎学力の向上及び言語能力の育成を図る。	小テストや週末課題など、きめ細かい評価を実施することで、基礎学力の向上を図る。	A	A	相互研鑽を積み、協力しながらよりよい授業のあり方を模索し、生徒の個別最適な学びの支援を継続する。
			調査・発表など、授業内での主体的・協働的な言語活動を工夫し、言語活用能力の育成を図る。	A		
		教材について理解の深化を図り、探究する姿勢を養う。	タブレットや資料等、教科書以外の教材も活用し、教材の発展的な理解を図るとともに、伝統文化を重んずる姿勢を培う。	B		
		表現力の育成を図る。	社会において必要な表現力を生徒が身に付けることができるよう、授業の工夫を図る。	A		
		外部からの助言や相互参観によって、授業改善に資する。	教員自らさまざまな研修等に主体的に参加し、情報共有に努め、授業実践をさらに向上させていく。	A		
	地理歴史	基礎学力の向上と進路目標の達成を図る。	学力の向上と家庭学習の定着を図るため、休業中の課題の工夫を図る。	B	A	・知識の習得と思考力の育成を両立するための方法を模索する。 ・身近なところをテーマにし、教科独自の面白さを生徒が実感できる授業を展開する。
			普通科・商業に関する学科それぞれの特徴に応じ、他教科との関連の中で授業内容の精選を行う。	A		
		地歴科への興味・関心を高める。	ICTの効果的活用、授業改善および教材・課題を工夫する。	A		
			副教材や地図・プリントなどを活用し、身近なところからテーマなどを取り上げる。	A		
		授業改善に関する項目	ICT活用したり、言語活動を取り入れたりするなど、生徒の主体的な学習を促す授業展開を工夫する。	A		
	公民	基礎学力の向上を図る。	プリントやワークを用い、作業学習や反復学習などを行う。	A	A	・学年を超えた授業のつながりを意識して授業を展開する。 ・様々な入試形態も見据えて、時事問題を積極的に取り上げる。
		公民科への興味・関心を高め、主権者としての自覚を高める。	ICTの効果的活用、授業改善および教材・課題を工夫する。	A		
			新聞その他の時事問題をテーマとした集団学習を行い、多面的に学習意欲を喚起する。	B		
			副教材やプリントなどを活用し、身近なところからテーマなどを取り上げる。	A		
		授業改善に関する項目	ICTを活用したり、言語活動を取り入れたりするなど、生徒の主体的な学習を促す授業展開を工夫する。	A		
	数学	基礎的・基本的な知識・技能の習得と学習意欲の向上を図る。	小テストや課題を実施して学習習慣の確立と基礎学力の定着・向上を図る。	A	A	・数学的な良さを伝える授業づくりや工夫を行う。 ・ICTを活用し、学年や学科間での情報共有を行う。 ・自己指導能力(一人で調べたり、考えたりする時間を十分に与える)の育成。
			授業において、人間の活動に関連する数学的な事例・問題を提示し、数学を活用することの良さに気づかせることで、数学に対する関心や意欲を高める。	A		
		生徒の実態に応じた指導と充実した授業展開を工夫する。	副教材やプリントを活用するとともに、観点別評価に準ずる考査の作成を図る。	A		
			新課程の授業展開や教材研究、前年度の教材等の情報交換を充実させる。	A		
		授業改善に関する項目	相互に授業参観を行い、意見交換を行う。	B		
	理科	教授内容をより深く理解できるように授業展開を改善・工夫していく。	意欲的に学習活動が行えるよう、授業の進め方や説明および発問方法について工夫するとともに、ICTなどを用いた新たな教材・教具を利用する。	A	A	・入試形態に合わせた授業や課外授業の工夫 ・他教科や探究活動との横断的な学び ・ICTの積極的活用 ・実験や実習の積極的実施
			個々の授業内容に即したプリント・課題を準備し、基礎学力の定着を図るとともに、大学入学共通テストにも対応できるような授業を展開する。	A		
		自然科学のすばらしさを実感できる授業の実施に努める。	自然科学(物理、化学、生物、地学)に関する研究の科学史等に触れながら、より興味関心の持てる授業を展開する。実物や実際の現象を見ることができるよう効果的な実験観察を実施する。	A		
		授業改善に関する項目	各自の教材研究を統合し、授業の改善を図る。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	保健体育	運動の楽しさや喜びを味わうことができる授業を展開する。	基礎・基本的な技能を身に付け、各運動種目の特性に触れることで、運動に対する学習意欲の向上を図る。	A	A	授業時間を工夫し生涯体育につながる授業展開を進めていきたい。保健分野でも充実した授業のために教材研究をすすめ生徒に伝えていきたい。
		体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度や、互いに教え合う能力を養う授業を展開する。	仲間と互いに励まし合いながら運動することで主体的・対話的に学び、運動量の確保・体力の向上を図る。さらに、試合において定められたルールを遵守する態度の育成を図る。	A		
		健康・安全について理解を深めることができる授業を展開する。	身近な話題や様々な視聴覚教材、ICTを活用・工夫し、集団や個人の健康を理解させ、生涯を通じて自らの健康を適切に管理・改善していく実践力の向上を図る。新型コロナウイルス感染拡大防止対応等を実施し、記録する。	A		
		授業改善に関する項目	ICTなどの教材、教具を用いた体育授業の工夫。	A		
	芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	幅広い活動を通して芸術への関心を高め、主体的な学習態度の育成を図る。	A	A	・生徒の主体的な学びと理解の深化のためにICTを有効に活用したい。 ・生徒が生涯にわたって芸術と豊かに関わり続けられるよう、授業での学びを身近な体験や実際の場面につなげていきたい。
			多様な表現の工夫ができるよう、基礎的・基本的な技術の習得を図る。	A		
			授業や学校行事、各種コンクール等への参加を通して、発表の場をつくと共に鑑賞の能力を高める。	B		
		美的体験をより豊かに味わえるよう、授業の改善に努める。	授業内容の充実を図るため、教材研究や事前準備を十分に行う。	A		
			教員自らが常に芸術的な資質の向上に努める。	A		
			教科内での連絡を密にし、授業における問題点等を話し合う。	A		
		授業改善に関する項目	単元のはじめに学習のねらいを示したり、単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。	A		
	外国語	基礎学力の向上と定着を図る。	小テストや朝学習等により語彙や基礎的な文法の定着を図る。	A	A	・相互に授業参観を行い、授業のブラッシュアップやALTの効果的な活用方法を模索する。 ・教室外で生徒がより主体的に英語学習に取り組める方法を模索し、学力向上に繋げる。
			ICTを効果的に活用する。	A		
			教室外での英語の使用を促すような課題を設定する。	B		
			ALTの効果的活用を行う。	A		
			外部英語検定試験の受験を支援する。	A		
		コミュニケーション力を育成する。	英語運用力および論理的思考力を育成する。	A		
			コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	A		
			異文化理解を促すための授業展開を工夫する。	A		
		授業改善に関する項目	各々の授業のノウハウや工夫点を共有し、授業の質の向上を図る。	B		
	家庭	生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。	ICT活用やグループワークなどを通して、興味・関心を引き出し、深い学びにつながる授業を工夫し、展開する。	A	A	・反転学習や意見集約、課題提出などでのICT活用を継続しつつ、思考を深めるための活用方法を模索する。 ・生活課題を自分事として捉え、主体的な学びを通じて、自己の成長を実感できるよう、学びの質を向上させる。
			実習や観察、調査、演習などの実践的・体験的な学習活動を通して、自立した生活者に必要な各種技能・知識の向上を図る。	A		
		家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想する。	ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する態度の育成を図る。	B		
		授業改善に関する項目	学習のねらいを示し、振り返りの機会を設定することで、学習の成果を実感できるようにする。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	情報	情報に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させるとともに、問題解決能力の向上を図る。	現代の情報化社会で生き抜く力を育むよう、情報モラルに関する指導を充実させ、知識の向上を図る。	A	A	・生徒が主体となって取り組める授業展開を、これまで以上に充実させていきたい。 ・共通テストを見据えた対策を、授業の中に取り入れていく。
			コンピュータの基礎的な操作の定着を図り、問題解決型学習の充実を図る。	A		
			言語活動の充実を図り、グループ活動等を取り入れるなど、生徒が自ら学ぶ意識を高める授業を充実させる。	A		
		授業改善に関する項目	1つ1つの学習活動が有機的に結びつきを持つように工夫する。	B		
	商業	基礎的・基本的な知識や技術の定着と向上を図る。	課題等の提出を通して生徒一人ひとりの学習到達度を把握するとともに、個々の学習到達度に応じた指導を工夫改善し、確実な学力を身に付けさせる。	A	A	・より高度な資格取得を目指すよう、習熟度に応じたきめ細かな指導体制の整備を進めていきたい。また、理解が十分でない生徒に対しては、個々の力に応じた支援の在り方を検討していく。 ・大学進学に対応するため、英語科と連携しながら、英語力向上を図る指導の一層の充実を目指す。
			ICTを活用し、わかる授業を行い、生徒自身に考えさせ理解度を深める授業の取り組みを行う。	A		
			基礎的な知識や技術の定着に重点を置き、資格取得に関する指導とのバランスを図る。	A		
		他教科・各学年・部等との連携を図る。	選科指導、進路指導、課外授業等を実施するにあたり、定期的に会議等を実施し、効率的な指導内容の研究・実施に努める。	A		
		進路希望の実現に向けた効率的な指導を実施する。	言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成を図り、能力や適性、興味・関心、進路の多様化に対応した指導研究を充実させる。	B		
		授業改善に関する項目	授業の目標を明確に示し指導にあたり、また、授業を振り返る活動を計画的に取り入れる。	B		
教務		学力向上と希望進路の実現に結びつく教育課程の編成や運営を行う。	教育課程を点検し、生徒の学力向上と進路実現に結びつく創意に満ちた教育課程の編成を行う。	B	A	・令和9年度入学生教育課程の再編 ・授業時数の確保、曜日による授業時数の偏りの解消 ・新日程となる定期考査の円滑な運用 ・ラーケーション取得基準の検討 ・学校HP、中学校訪問等とおした広報活動のさらなる充実 ・学校説明会・公開授業等の実施方法の再検討 ・私学無償化への対応(特色ある学校の発信等の充実) ・ICT活用、AI活用に向けた職員研修等の充実
			授業時間の確保のため学校行事を精選し、授業と学校行事の効果的な実施を目指す。	B		
		全学年共通に実施できる学習体制の構築を図る。	朝学習や放課後課外及び検定対策課外等を計画調整し、生徒が主体的に参加できる学習の場の確保に努め、学力向上と検定資格取得に繋げる。	A		
			学科及び学年の特性を踏まえ、定期考査、課題・実力考査を適切に計画実施し、学習意欲の高揚に努め、確かな学力の定着を図る。	A		
		考査計画(実施時間・時期、科目等)の検討を進める。	模擬試験や検定試験等も視野に入れた授業を展開し、希望進路の実現に向けた学力の向上を図る。	A		
			生徒面談を通して生徒の学習意欲や進路への意識を高める。また、学習習慣の定着と受験に対応できる学力の定着を図り、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう支援する。	A		
		生徒面談及び保護者面談の充実に努める。	保護者面談を通して、生徒の学校生活・家庭生活の様子や進路希望等について家庭と情報を共有する。また、生徒の希望進路の実現に向けて必要な情報を提供し、家庭においても学習意欲や進路意識の更なる高揚を図る。	A		
			中学校訪問や学校説明会、公開授業等において、本校の教育活動を公開することにより、普通科と商業関係学科の併設校ならではの魅力を広く周知し、より一層の本校理解の推進に務める。	A		
		本校の目指す教育活動の広報のため、積極的な情報提供を図る。	充実した学校生活をイメージできる学校紹介パンフレットを作成する。	A		
			ホームページを活用し、本校の特徴や最新情報を積極的に公開する。	A		
		日常業務の円滑な実施に努める。	コンピュータやネットワークの環境を整え、管理・運営を適切に行う。	A		
			校務支援システムを円滑に運営できるよう管理し、使用上の必要事項を職員に周知する。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒支援	自律を促し、規範意識の向上を目指す指導を実施する。	自ら正すことができる生徒の育成を考え、きちんとした身だしなみを徹底させるとともに、遅刻防止、挨拶の励行にも努めさせる。他人の痛みの分かる生徒の育成に努める。	B	人間関係の構築が苦手な生徒が増え、安易な行動や言動で人を傷つける事案が複数あった。根気強く人を大切にできる人間づくりを進めていきたい。
	生徒が健康で安全な生活が送れるように努める。	交通講話、交通指導等により交通マナーを向上させ、事故の未然防止にもつなげる。	A	
		段階的指導、学校内外の巡視を通じ、自己指導能力の向上と問題行動の未然防止に努める。	B	
		授業や講話を通じ、薬物の怖さを認識させ、問題行動の未然防止につなげる。	A	
	教育相談の体制を充実させ、健康に不安がある生徒の支援に努める。	各学年と連絡を密にし、健康に不安がある生徒の掌握に努める。保健厚生部とも連携し、教育相談等により生徒の不安を解消するための支援に努める。	A	
進路指導	生徒一人ひとりの進路実現を支援するキャリア教育体制の確立を図る。	各学年の適切な時期に進路研究や進路説明会を実施することによる生徒の進路意識の高揚を図る。	A	・土曜学習の回数の見直しおよび再編成 ・課外授業実施時期の統一 ・指定校推薦や求人票などのとりまとめ作業のDX化 ・各学年による進路ガイダンスのさらなる充実を目指す ・進路探究の充実を図る
		最新の進路データ・資料等を提供する。	A	
		各学年や他の分掌と連携したキャリア教育を推進する。	A	
	個別指導による進路指導の充実を図る。	個別面談による進路研究支援と学習支援を実施する。	A	
		進路希望別進路ガイダンス及び特別講座等の他、面接・小論文対策を実施する。	A	
	学力向上のための支援をする。	課外授業・模擬試験の充実を図る。	B	
	就職支援の充実を図る。	就職セミナーやガイダンス等を実施し、就職希望生徒の進路実現を支援する。	A	
特別活動	部活動への生徒の自主的・自発的な取り組みを促進し、改革を図る。	部活動を通して健全な体力と社会性を育成し、協調と連帯の精神を養うようにする。	A	・応援委員のあり方を検討する。 ・キャリアパスポートの具体的方策を検討する。 ・学校行事の計画・運営・伝達を早くする。
		部活動の環境を整えながら、より一層活発な活動が行われるようにする。	B	
	生徒会活動や各種委員会活動の活性化に努める。	生徒会活動や委員会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員として学校生活づくりに自主的に取り組む態度を育てる。	A	
		ホームルーム活動や学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。	B	
	ホームルーム活動や学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。	ホームルーム活動の時間を活用し、豊かな心の教育を充実させる。	B	
		学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、学校生活を築こうとする自主的な態度を育てる。	A	
	学校行事の充実を図る。	内容を吟味しながら、従来の学校行事にこだわらず、生徒のニーズに合わせた新しい取り組みを積極的に行う。	B	
保健厚生	キャリア・パスポートを活用する。	生徒がそれぞれ特別活動の履歴内容を整理し、自己の活動を振り返りながら将来の自己実現に繋げる。	B	
	保健管理・保健教育を充実させる。	生徒が心身の健康に関心を持ち、常に自らの生活状況を見つめ、自ら健康の保持増進を図れる姿勢を身に付けさせる。心身の健康に配慮が必要な生徒について教職員間で共通理解を図り、必要な配慮を行う。	A	
	環境美化につとめ、安全で快適な教育環境を整えられるよう組織を編成する。	清掃状況を定期的に点検し、適切な指導を行うことにより清掃の徹底を図る。清掃用具等の補充・交換を円滑に行う。校舎内での生活環境の整備に努め、より快適な生活ができるようにする。	A	
	防災意識の高揚に努めるとともに、避難計画の職員・生徒への周知徹底を図る。	HR等を利用して、生徒の防災意識を高める。火災や地震その他の災害において、安全かつ速やかな行動ができるよう避難訓練を計画実施する。教職員の協力体制を確立し、保護者や地域との連携を図る。	A	
	個に応じた支援の充実を図る。	他の分掌、学年と情報を共有し、教職員全体の協力体制を確立する。保護者や外部機関と連携を図る。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
図書視聴覚	図書館の環境整備に努め、学習・読書等の文化的活動の支援につながる図書資料の充実を図る。	図書や視聴覚資料を適切に購入、廃棄、配列し、利用しやすい環境を整える。	A	B 「探究」や各教科の授業利用を推進し、「読書会」や地元の公共図書館との連携、豊かな文化的活動の支援を継続する。図書委員会の生徒による主体的な活動を多くの教員で継続的に支援する。
		探究や小論文対策など、各教科・分掌等と連携し、生徒や教職員のニーズに合った資料収集に努める。	B	
		生徒図書委員会と連携し、生徒や教職員にとって親しみやすい図書館作りに努める。	A	
	生徒および職員の積極的な図書館利用を促す。	移動図書館、図書だより等、校内の図書の配置や印刷物や掲示物を工夫する。	B	
		生徒図書委員会がさまざまな企画を主体的に企画運営し、図書館利用が増加するよう、支援する。	A	
	本校の探究の推進に努める。	各学年と連携・協力し、本校独自の探究プログラムの推進に寄与する。	B	
渉外	PTAの各行事の内容充実に努め、保護者への積極的な参加を呼びかけことにより家庭との連携を密にする。	PTA総会・支部茶話会などへの参加を積極的に促し、内容や資料の充実を図る。	B	B 今年度の諸行事においても、保護者の方の積極的な協力を得ることができたものと思う。次年度については、今年度の反省を生かして対応する。
		PTA総会・支部茶話会などのあり方や必要性を検討する。	A	
		生徒の学校生活に保護者が接する機会として、授業見学や登校指導を計画する。	B	
		学校の教育活動への理解や支援を得るために、PTA広報紙「岩田ヶ丘」を年2回発行する。	A	
		会員相互の理解と親睦のために、「PTA親睦会」や「PTA研修」などを実施し、PTAの組織の充実と結束を図る。	B	
第1学年	学習環境の整備と希望進路の実現に向けた指導を推進する。	明るく、何事にも意欲的に取り組むことが出来る環境を作る。	A	A ・基本的生活習慣の確立を、いっそう促す。 ・生徒が集中して学習に取り組める環境を整える。 ・授業を第一とした基礎学力の向上を図る。 ・様々な学校活動を通して、進路選択の幅を広げ、より高い目的意識をもたせる。
		自身の将来像をしっかりと見据え、進路実現ができるよう支援する。	A	
		礼節を重んじ、社会貢献ができる人間形成を目指す。	B	
	基本的生活習慣の早期確立を図る。	規則正しい生活習慣を身に着けさせる。	B	
		きちんとした挨拶や適切な言葉遣いや態度をとれるよう常に意識させる。	A	
		時間を守り、有効に使う習慣を定着させる。	B	
	学習習慣の定着を図る。	毎日の授業にしっかりと取り組み、基礎学力を着け、家庭学習習慣の定着を促す。	B	
		面談や講話等を通して、学習・進路に関する情報を効果的に発信し、目的意識を高める一助とする。	A	
		朝学習、放課後の課外により、基礎学力を定着させ、発展的な学習へと結びつける。	A	
		休校期間になった場合には、オンライン教材や課題などを活用し生活の安定と学力の維持につとめる。	A	
	進路の適切な導きを図る。	進路に対する高い目標を掲げ、その実現に向けて継続して努力させる。	B	
		希望進路や自分の適性にあった分野を選択させる。(普通科)	A	
		希望進路や自分の適性にあった科を選択させる。(商業に関する学科)	A	
	探究活動の充実に努める。	自ら課題を設定し、課題を追究することにより、主体的に行動するように促す。	B	
		視野を広げ、他者との協調性を高め、社会に貢献できる人間の育成を図る。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第2学年	学年活動の様々な場面を通して進路実現のための指導を進める。	明るく何事にも意欲的に取り組むことが出来る環境を作る。	B	次年度は第3学年として、生徒の進路実現に資する指導に尽力していく。各教科の学習指導に努力するとともに、生徒達には進路目標の適切な設定、小論文指導や面接指導などを通して、総合型選抜、推薦入試、一般入試の受験指導をしていく。専門学校、就職希望者にも同様に、ミスマッチのないように相談等を利用して細やかに相談の場を設けていく。
		自身の将来像をしっかりと見据え進路実現出来るよう支援する。	A	
		礼節を重んじ社会貢献出来る人間形成を目指す。	A	
	基本的生活習慣を確立させ、自立した社会人の育成を図る。	自立した大人としての自覚を持たせ、規律ある行動を求めると共に、学校生活に意欲的に取り組ませる。	B	
		保護者との連携を密にしながら、服装・頭髪指導及び遅刻指導の徹底を図る。	B	
		修学旅行をとおして、平和への意識、社会とのつながりを意識させ、社会性の育成を図る。	A	
		生徒会活動等の中心になることへの意識を高め、責任感を持たせる。	A	
	学習習慣の定着を図る。	面談を通して、効果的な学習方法を提案し、家庭での学習習慣の定着を促す。	A	
		授業や集会等を通して、学習・進路に関する情報を効果的に発信し、目的意識を高める一助とする。	A	
		朝学習や課外の実施を工夫することにより、基礎学力を定着させ、発展的な学習へと結びつける。	A	
		学習課題を適切な量で課すことで、自学のできる環境整備を整え、家庭学習効率の向上を目指す。	A	
	進路の適切な導きを図る。	一人ひとりの進路実現に向け、適切な目標設定をさせ、目標に向けた道標を構築させる。	A	
		進路実現に向け、学力の向上、資格取得など3学年に向けた準備意識を向上させる。	A	
		教員側が適切な情報収集をしっかりと行い、生徒たちへの的確な情報発信を行う。	B	
第3学年	進路実現に向け、希望進路に応じた学習指導を行う。	希望する進学や就職に対して、最後まであきらめずに取り組める生徒の育成を図る。	A	・入試突破をゴールとせず、その先を見据えた進路指導と、進路決定後の学習意欲維持策の実施 ・多様化する選抜方法への対応と、教員間での指導ノウハウの組織的共有 ・生徒の主体性を育む指導方法の開発と実践
		共通テストや私立大学・国公立二次試験にも最後まで対応しうる学習指導を行う。	B	
		ICT教材を利用した自学自習や、放課後や週休日における学校での学習環境の充実を図る。	B	
		自らの進路決定に向けて、自己理解を深め、課題解決力を積極的に身につける活動を支援する。	A	
		学級担任・教科担当による個人面談・個別指導等を通して、適切な希望進路決定を目指すように促す。	A	
	生徒本人が納得した進路決定を目指す。	公務員・就職・看護説明会の充実、面接指導、志望理由書の書き方指導等を早期から実施する。	A	
		生徒一人ひとりが最善を尽くし努力できる環境を作る。	A	
		学年全体での協力体制を確立し、和を持って物事に対応する雰囲気を作る。	B	
	社会の一員になることを意識し、自立自活できる人間性の育成を図る。	18歳成人の実施に伴い、成人としての自覚を持たせ、規律ある行動を求めると共に、学校生活に意欲的に取り組ませる。	A	
		時代に応じた情報収集力・思考力・表現力・判断力を高め、卒業後に社会の一員になる自覚を持たせる。	A	

※ 評価基準 A: 充分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない